

新除草・調節剤

UC-22463 粒 剤

(取扱メーカー) 長瀬産業株式会社

対象作物：水田裏作麦（平畦栽培）

性状・作用特性：本剤の有効成分は，3，4-ジクロロベンジル-N-メチルカーバメイトで，剤型は5%粒剤である。

本剤は非ホルモン型の移行型除草剤で，その殺草作用は，土壌表面処理あるいは雑草莖葉処理によって，幼植物体内での葉緑素合成を阻害することによっておこなわれる。

雑草種類に対する選択殺草性は，イネ科に大，広葉にやゝ小の傾向にある。雑草種類別ではスズメノテッポウに大きく，ノミノフスマ・ヤエムグラ・イヌノフグリ・ハコベ等には劣る。

麦に対する薬害は，使用方法によって生ずることもあり，その症状はクロロシスなどをおこし，生育障害がみられるが，後回復し，収量にはあまり影響しない。

人畜毒性は，マウス経口毒性， $LD_{50}=1.620\text{ mg/Kg}$ と安全である。

使用方法：今回実用化が認められたのは，水田裏作麦の平畦栽培を対象とした播種後土壌処理用としてである。使用量は10アール当り製品4Kgで均一に散布する。

使用上の注意：本剤は，土壌が乾燥していると効果が劣るので湿潤な水田で，かつイネ科雑草の優占圃場での使用が有効である。

粒剤であるからまきむらがあると薬害を生じやすいので，特に均一散布する。

H-669 乳 剤

(取扱メーカー) 丸和物産株式会社

対象作物：麦

性状・作用特性：本剤の有効成分は，イソプロピル-N-(3-クロロフェニル)カーバメイト(CI-IPC)85%と，(3，4-ジクロロフェニル)-1-メトキシ-1-メチルウレア(リニュロン)15%との混合粒剤である。

母剤のCI-IPC，リニュロンは，両者とも既に単剤でも麦圃の播種後土壌処理剤として実用化されているが，混合剤とした理由は，リニュロンがスズメノテッポウにやゝ効果の劣る点をCI-IPCによってカバーしたものである。

両母剤とも非ホルモン型移行型除草剤であり，その作用特性は既によく知られているのでここでは省略する。

人畜毒性は，CI-IPCがマウス経口毒性 $LD_{50}=3,800\sim5,000\text{ mg/Kg}$ ，リニュロンが同 $4,000\text{ mg/Kg}$ と両者とも殆んど無害である。

使用方法：今回実用化が認められたのは，洪積火山灰土地帯における水田裏作麦および畑作麦を対象としてである。使用時期は播種後，使用量は10アール当り製品150～200gで，70～100ℓの水にとかして均一に散布する。

使用上の注意：リニュロン単剤と同様に覆土

新除草・調節剤

を2～3 cm程度行なってから処理する。

エムオー

C N P 粒 剤・乳 剤

M O 普 及 会

三井化学工業株式会社
(取扱メーカー)

イハラ農薬株式会社

三 共 株 式 会 社

対象作物：粒剤 七島イ，乳剤 なたね

性状・作用特性：本剤の有効成分は，2，4，6-トリクロロフェニル-4'-ニトロフェニルエーテル（CNP）で，剤型には7%粒剤と20%乳剤の二つがある。

本剤の作用特性は，本誌1，2号に記してあるのでここでは省略する。

使用方法：今回実用化が認められたのは，

①七島イ対象（粒剤），②ナタネ対象（乳剤）である。

①七島イ対象；一年生雑草優占圃場の湛水土壌処理用として実用化がみとめられた。使用時期は植付後，使用量は10アール当り製品3～4kgで，均一に散布する。

②ナタネ対象；暖地水田裏作ナタネ地帯の一年生雑草優占圃場（ノミノフスマは除く）の土壌処理用として実用化がみとめられた。使用時期は播種後，使用量は10アール当り製品1,000～1,500gを水70～100ℓにうすめ均一に散布する。

使用上の注意；降雨前後の使用をさける。乳剤の場合は，播種後1～2 cmの覆土をして処理する。

B N P C 粒 剤

(取扱メーカー) 北興化学工業株式会社

対象作物：イ草

性状・作用特性：本剤の有効成分は，ブチノール-N-(3-クロロフェニル)カーバメイト（BIPC）4%と，2，6-ジクロロベンゾニトリル（DBN）1%との混合粒剤である。

作用特性は，母剤であるBIPC，DBNは共に非ホルモン型移行型除草剤で，既に各単剤ともよく知られているので省略する。

雑草の種類と殺草性は，イネ科および広葉の一年生雑草とマツバイに有効である。

イ草に対する薬害の発現は，減水深の特に大きくなった水田以外では殆んど認められない。

人畜毒性は，BIPCがラット経口毒性LD₅₀ = 2,500 mg/kg，DBNがマウス経口LD₅₀ = 6,810 mg/kgと安全である。

魚毒性については，BIPCがヒメダカ48 hr TLM = 2 ppm 以上，DBNがコイ48 hr TLM = 20 ppm で殆んど心配がない。

使用方法：今回実用化が認められたのは，イ草対象としてである。使用時期は生育期（3月上～中旬），使用量は10アール当り製品4～6kgを，湛水条件下で均一に散布する。適用土壌は，漏水の少ない壤土～埴壤土である。